

役員名簿

理事・監事

(平成23年7月1日現在)

役職名	氏名	役職
理事長	持田 勲	工学博士 九州大学名誉教授 九州大学特命教授(炭素資源国際教育研究センター) (独) 科学技術振興機構研究成果活用プラザ福岡館長・全国石油協会会長
副理事長	尾座本 宣一	前福岡県福祉労働部理事
副理事長	松藤 泰典	工学博士 九州大学名誉教授 北九州市立大学国際環境工学部教授
常任理事	川野 田實夫	大分大学特任教授
常任理事	楠田 哲也	工学博士 九州大学名誉教授 北九州市立大学国際環境工学部教授
常任理事	中西 章夫	九州電力(株) 理事 地域共生本部 部長(環境関係)
常任理事	百島 則幸	理学博士 九州大学アイソトープ総合センター教授
理事	浅野 直人	福岡大学法学部教授
理事	小山 次朗	農学博士 鹿児島大学水産学部教授・海洋資源環境教育研究センター長
理事	島岡 隆行	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授
理事	関根 雅彦	工学博士 山口大学大学院理工学研究科教授
理事	早瀬 隆司	工学博士 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授
理事	松岡 信明	理学博士 前当協会事業本部長
理事	矢野 健二	当協会経営本部長
理事	矢幡 久	農学博士 九州大学名誉教授 西日本短期大学緑地環境学科長
監事	甲能 市郎	公認会計士・税理士 甲能公認会計士事務所所長
監事	土生 清文	(株)福岡銀行監査役

評議員・顧問

役職名	氏名	役職
評議員	池田 元輝	農学博士 九州大学名誉教授
評議員	内海 英雄	薬学博士 (独) 医薬品医療機器総合機構理事・審査センター長 九州大学名誉教授 九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点長
評議員	薛 孝夫	農学博士 九州大学大学院農学研究院准教授
評議員	高木 直人	(財)九州経済調査協会常務理事
評議員	中野 勝之	工学博士 福岡大学工学部教授
評議員	中村 明	九州電力(株) 上席執行役員 原子力発電本部 副本部長
評議員	西田 哲明	理学博士 近畿大学産業理工学部教授・分子工学研究所副所長
評議員	野中 敬正	工学博士 熊本大学名誉教授
評議員	速水 洋	工学博士 九州大学名誉教授
評議員	樋口 壯太郎	工学博士 福岡大学工学部教授
評議員	二渡 了	工学博士 北九州市立大学国際環境工学部教授
評議員	宮島 徹	理学博士 佐賀大学大学院工学系研究科教授
評議員	柳 哮	理学博士 九州大学名誉教授
顧問	竹下 健次郎	工学博士 九州大学名誉教授 元当協会副理事長

一 編集後記 一

会誌「環境管理」第40号を創立40周年記念号として皆様にお届け申し上げます。昭和46年の財団法人発足以来毎年欠かさず会誌を発行できたのは、偏に皆様のご指導、ご支援のお陰であると感謝します。

本号では、創立に当たって行政の側からご尽力を頂いた福岡県、福岡市、北九州市の環境行政部局様に「祝辞」のご寄稿をお願いいたしましたところ、快くお引受けいただきました。それぞれの祝辞を一読させていただきますと、これまでの環境問題の流れを概観できると同時に、現状の課題、将来の方向性が簡潔に示されており、環境問題に携わるものにとって極めて貴重な示唆を与えていただいております。ここに改めてご寄稿へのお礼を申し上げます。

次に、当協会の創立と経営に深く係わられた、竹下健次郎、高島良正、小林博之の各氏にご寄稿いただきました。どのご寄稿においても、職員にとって風化させてはならない教訓やエピソードが述べられております。また、いずれのご寄稿においても当協会の存立基盤について極めて的確な指摘をされています。これらは常日頃から意識しなければいけないことですが、大先輩からのご意見として職員一同改めて肝に銘じます。小林博之元専務理事は、ご病床にもかかわらず協会職員のためにご執筆いただき、この4月8日にご逝去されました。ご生前のご指導に感謝すると同時に、ご冥福をお祈り申し上げます。

理事長挨拶では、今後の事業方針、特に「一般財団法人」への移行を念頭においた事業展開と協力体制の構築について述べました。

論説では、山口大学大学院理工学研究科の関根雅彦先生に、研究者・学識者としてホテル再生プロジェクトに係わったご経験を述べていただきました。このようなプロジェクトにおける「学」の立場の役割や責任が明確に描出されています。また本業の研究のあり方に対するフィードバックまで述べられており、大変興味深い論説です。ご執筆の最終段階で東日本大震災が発生し、それを踏まえて科学者の貢献と責任についても論及されています。

特別寄稿論文では、まず九州大学大学院農学研究院の鬼倉徳雄先生と乾隆帝先生に、河川生態系保全のための淡水魚分布予測の研究について述べていただきました。景観生態学的手法に基づき、地理情報システム(GIS)の技術を導入して、個々の生態系における生き物の分布予測と結果の可視化を試みられています。様々な課題と制約を抽出され、情報のデータベース化の重要性を述べられています。

続いて、福岡県保健環境研究所の田中義人先生に、アオコに関する研究について述べていただきました。内外の湖沼において富栄養化と関連するアオコの問題が浮上していること、またその毒性が人や生態系に影響する可能性があることが指摘されています。アオコ対策のためには、アオコの分類と毒素の測定が重要であり、これらについて福岡県保健環境研究所での研究取組の内容が述べられています。

当協会職員から4篇の研究報告をさせていただきました。数値シミュレーションを用いたアサリ浮遊幼生の挙動解析の研究では、博多湾と有明海における浮遊幼生の分布・着底の状況が解明され、アサリ資源保全のための貴重な情報が得られました。

組織結合型トリチウム測定の研究では、液体シンチレーション測定法と質量分析法の比較検討を行い、極めて低いレベルの測定には後者が有効であるとしています。トリチウムは原子力施設から放出される可能性がある水素の放射性同位体です。原子力施設の安全性確保に関連して、このような研究も継続して実施いたします。

DNAの研究では、まずDNA抽出、制限酵素処理、電気泳動解析などの基礎技術を確立しました。次に確立したDNA分析法によってニッポンバラタナゴとタイリクバラタナゴの識別を試みました。分析の結果得られる遺伝子部分塩基配列とDNA配列データベースの塩基配列を使って分子系統解析を行うことによって両者の識別が可能となりました。

カドフシアリ属の生物地理の研究では、アジアを12の区域に細分し、それぞれの区域でのカドフシアリ

り属の種の分布状況を調べました。結果をクラスター解析したところ、アジアでは区域ごとの地史と現在の気候を反映して、区域間の類縁性が少ないと結論されました。

研究活動の継続は当協会の事業の基礎をなすもの

でありますので、職員には一層の研究活動が期待されます。

最後になりますが、ご寄稿いただきました方々に改めて感謝申し上げます。

(編集担当：松岡)



現在の正門



同じ場所の風景（昭和50年頃）

財団法人 九州環境管理協会 会報
「環境管理」第40号

平成23年7月1日発行

発行者 持田 勲

発行所 (財)九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台1-10-1

TEL (092) 662-0410(代)

FAX (092) 662-0411

印刷所 (有)一正堂